



DiGiCo v2242  
Release Notes

2026年6月

# Contents

## 内容

1.0	v2242 修正されたエラー(バグフィックス)	3
1.1	Setlists (セットリスト)	4
1.2	Aux to Faders includes Groups (Aux to Faders グループ対応)	6
1.3	Mustard Levelling Amp (Mustard レベリング・アンプ)	7
1.4	Snapshot Recall Times (Snapshot リコール・タイム)	8
1.5	SOUND DEVICESとの連携	9
1.6	LiveTrax 3との連携	11
1.6.1	マクロ	11
1.6.2	LiveTrax	12
1.6.3	マーカーの自動挿入	13
1.6.4	再生 - Snapshotの呼び出し	13
1.7	Snapshotとマクロの移動	14
1.8	その他の機能と変更	15
1.8.1	Macro検索	15
1.8.2	Aux パンデータ	15
1.8.3	Macro追加機能	16
1.8.4	Mustard Dynamics - Overview 画面	16
1.8.5	KLANGのピックアップポイント	16
1.8.6	Nodal Processing 情報	17
1.8.7	Snapshot パネル表示オプション	17
1.8.8	Quantum 1 サーフェスのオフライン情報	17
1.9	DiagnosticsからLog取得が可能	18
1.10	v2232 修正されたエラー(バグフィックス)	19

## 1.0 v2242 修正されたエラー(バグフィックス)

- Q852：クロスフェード使用時のスナップショット呼び出しのパフォーマンスを改善しました。
- Setlist(セットリスト)
  - Setlistのドロップダウンメニューが、まれに反応しなくなることがありました。
  - Setlistを含むセッションを部分的に読み込むと、Setlistのすべてまたは一部が削除されることがありました。
- Setlist内にある場合、「Update Current Snapshot' (現在のスナップショットを更新)」マクロがアスタリスクを削除していませんでした。
- Setlistの使用中に、AV (アクセス違反) やデータ破損が発生することがありました。
  - 破損したセッションをバージョン v2242 に読み込むと、Setlistデータは可能な限りすべて復元されます。
- Q852 Theatre CG の「Fader off colour」が、サーフェス上の他のチャンネルタイプから誤って色を継承することがありました。
- Theatre ソフトウェア – 「All Settings(すべての設定)」および「CG members only(CG メンバーのみ)」ボタンの現在の状態が、時折誤った状態を表示していました。
- Q225、Q338、Q326、Q5、Q7 - オーディオエンジンにおけるコンプレッサーのknee (ニー) 値に関するメッセージ表示が改善されました。
- Q225およびQ225DSにおいて、「Group」および「Changed」のサーフェスLEDが反転表示されていました。
- 右側の画面に表示される確認ダイアログが、マスター画面に表示されることがありました。
- オーディオI/Oにおいて、ポート接続を削除できませんでした。
- SD12 – Wavesとの連携をしていない場合でも、新しいセッションにDMI-Wavesが自動的に追加されていました。

## v22 機能

### 1.1 Setlists (セットリスト)

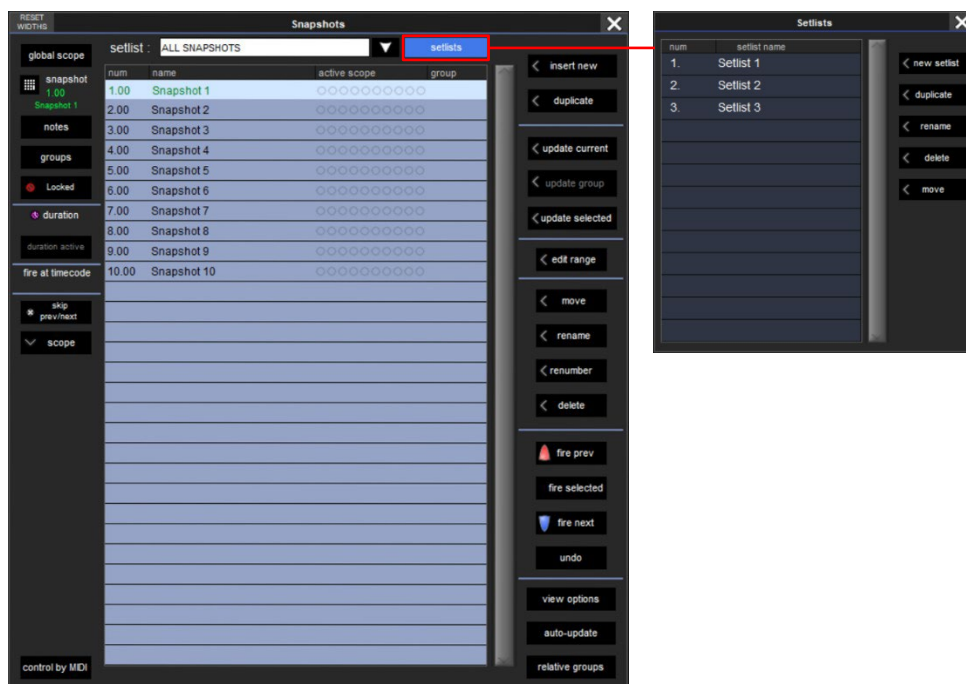
SetlistはSnapshotリストをフィルタリングします。元のSnapshotはすべて残りますが、順序と表示状態を一時的に変更できます。

Setlistは、リスト内にSnapshotのコピーを作成するものではないことに注意してください。実際には「ALL SNAPSHOTS」と呼ばれる元のリストからそれらを実行しています。

これは、たとえばSetlist 1において「Snapshot 1」というSnapshotが更新された場合、その変更はSetlist 2、3、および「ALL SNAPSHOTS」から「Snapshot 1」が呼び出された際にも反映されます。

「ALL SNAPSHOTS」リストは引き続き存在し、これはv21と同様に全Snapshotが表示されます。

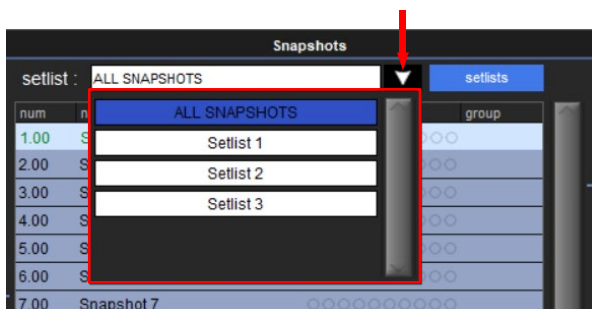
**注意：**この機能は Theatre バージョンのソフトウェアでは使用できません。



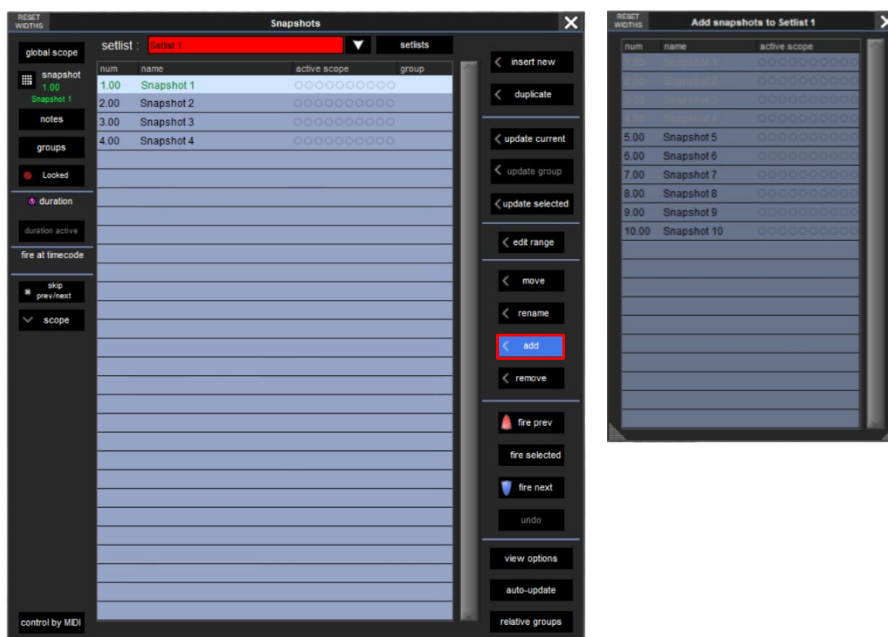
Setlistパネルは、setlistsボタンをクリックして表示します。Setlistのオプションを設定できます。

- New Setlist (新しいSetlist)
- Duplicate (複製)
- Rename (名前の変更)
- Delete (削除)
- Move (移動)

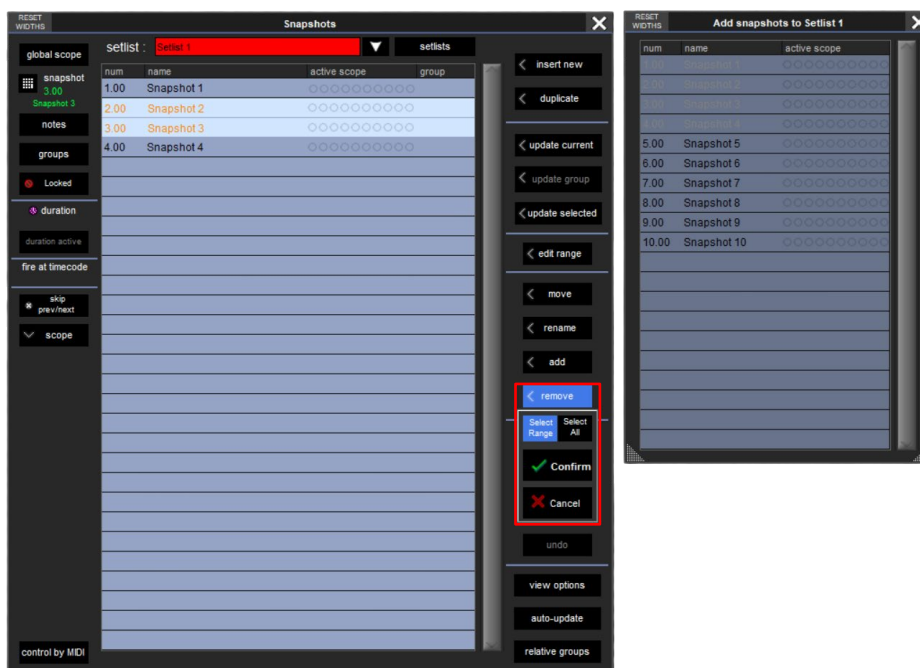
ドロップダウンをクリックして、Setlistを選択します。



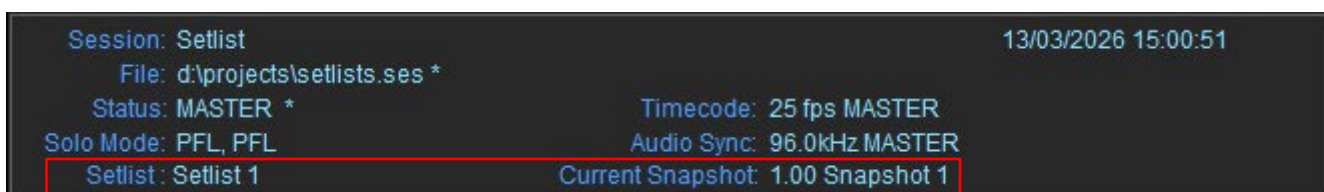
Setlistがロードされたら、Add (追加) ボタンを押し、リストからSnapshotを選択して現在のSetlistに追加します。



Remove (削除) ボタンを押し、Select Range (範囲選択) または Select All (すべて選択) を使ってSetlistから削除したいSnapshotを選択して Confirm (確定) を押します。



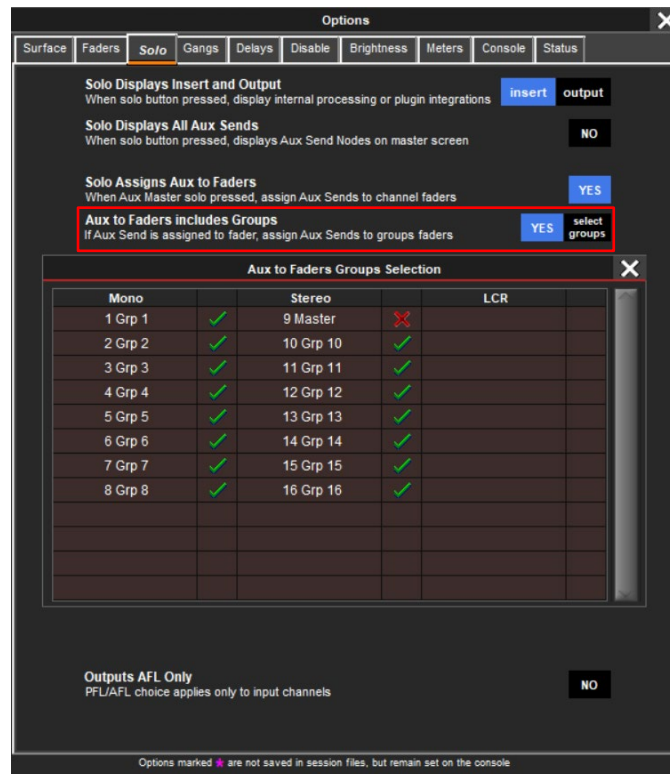
Session Information Panel (Session情報パネル) に新しい行が追加され、現在のSnapshotと、コンソールで現在アクティブなSetlistが強調表示されるようになりました。



## 1.2 Aux to Faders includes Groups (Aux to Faders グループ対応)

Options > Solo に、「Aux to Faders includes Group」オプションが追加されました。

このオプションを YES に設定すると、Auxセンドがフェーダーに割り当てられる際、グループフェーダーも同時に割り当てられるようになります。この動作を適用するグループchを個別に選択可能です。



デフォルトでは、マスターグループを除くすべてのグループが対象となります。この選択はいつでも変更でき、Sessionファイルに保存されます。

「CG Fader Controls Aux Sends (CGフェーダーでAuxセンドを制御)」が有効な場合、グループフェーダー上のすべてのAuxセンドにもこの設定が適用されます。

## 1.3 Mustard Levelling Amp (Mustard レベリング・アンプ)



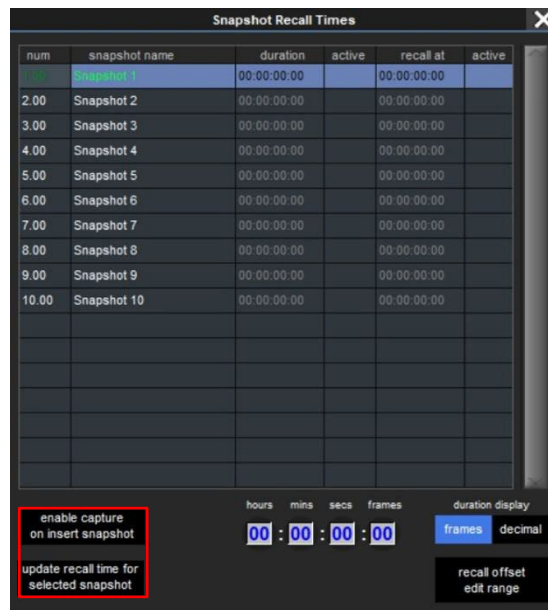
新しい「Mustard Levelling Amp」（シルバーのもの）は、クラシックな真空管設計の電気光学式コンプレッサーのサウンドに基づいており、ボーカルやベースなどの音源に対してダイナミックな質感を維持しながら、暖かみと厚みを与えます。

Levelling Ampのアタックとリリースは固定されており、シンプルなコントロールを提供します。

- **Peak Reduction**：コンプレッサーを動作させる信号量を調整し、しきい値(スレッシュホールド)を変化させます。
- **Gain**：圧縮後のメイクアップゲインを調整します。
- **The Limit/Compress**スイッチ：圧縮比（レシオ）を変更します。

## 1.4 Snapshot Recall Times (Snapshot リコール・タイム)

Snapshotには挿入時点でリコール・タイムを記録する機能に加え、タイムコードからリコール・タイムを更新できるようになりました。



**Enable capture on insert snapshot** : 従来の「capture recall times」から名称が変更されました。

**Update recall time for selected snapshot** : 選択中の既存のSnapshotに対して、現在のタイムコードの値をキャプチャして更新します。

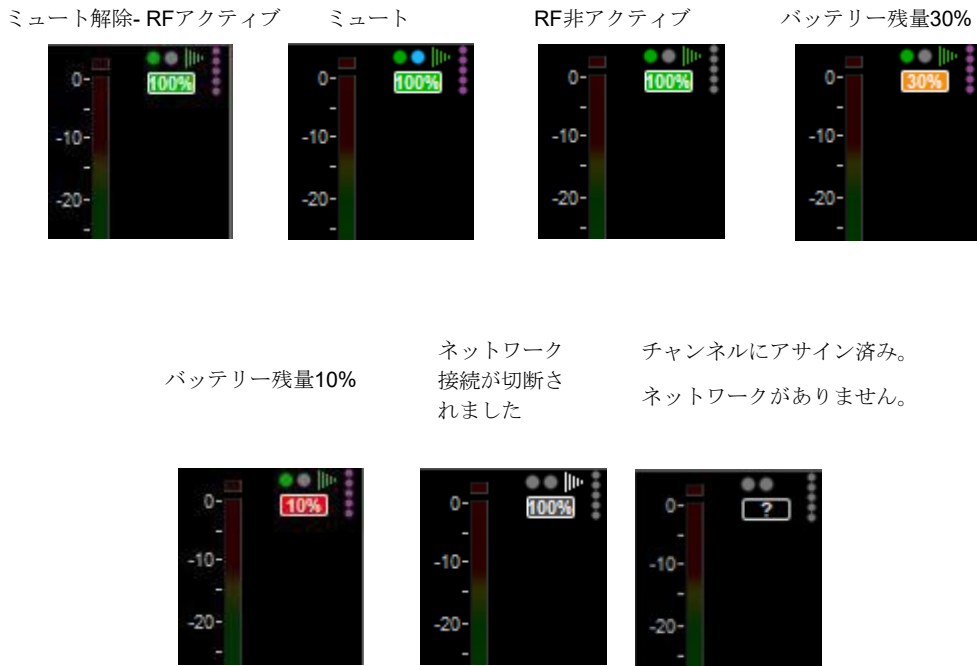


**Recall offset edit range** : Snapshot(または選択範囲) 内の「recall at」タイムコード値を正または負の値でオフセット設定が可能。

## 1.5 SOUND DEVICESとの連携

既存の Astral マクロ統合機能に続き、v22ではすべての Quantum コンソールのチャンネルメーター上に以下の情報を表示できるようになりました。

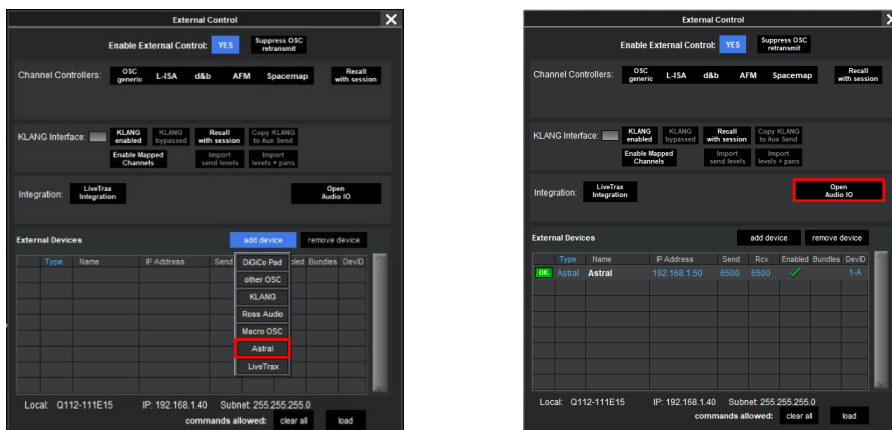
- パックのオンおよびオフ（緑またはグレーのアイコン）
- オーディオミュートのオンおよびオフ（青またはグレーのアイコン）
- Nexlink RSSI (通信品質)
- RF クオリティ（5つの紫のアイコン）
- バッテリーレベル



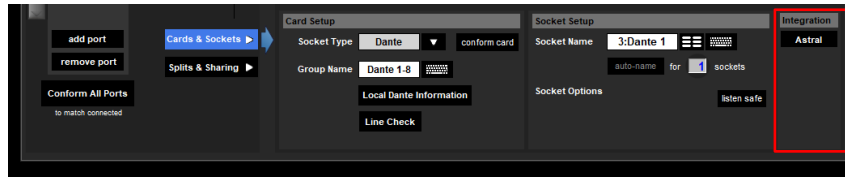
コンソールで Astral コントローラーを設定するには、まず External Control (外部制御) に移動し、add device (デバイスを追加) -> Astral を選択します。

SOUND DEVICES ハードウェアとコンソールのIPアドレスを確認してください。コンソールのIPは External Control パネルで、Astral のIPはネットワークメニューの control IP ヘッダーの下で確認できます。

コンソールの External Control 画面で、Astral のIPアドレスを入力します。Astral 連携を使用する場合、送信 (Send) および受信 (Receive) ポートは 6500 に固定されることに注意してください。

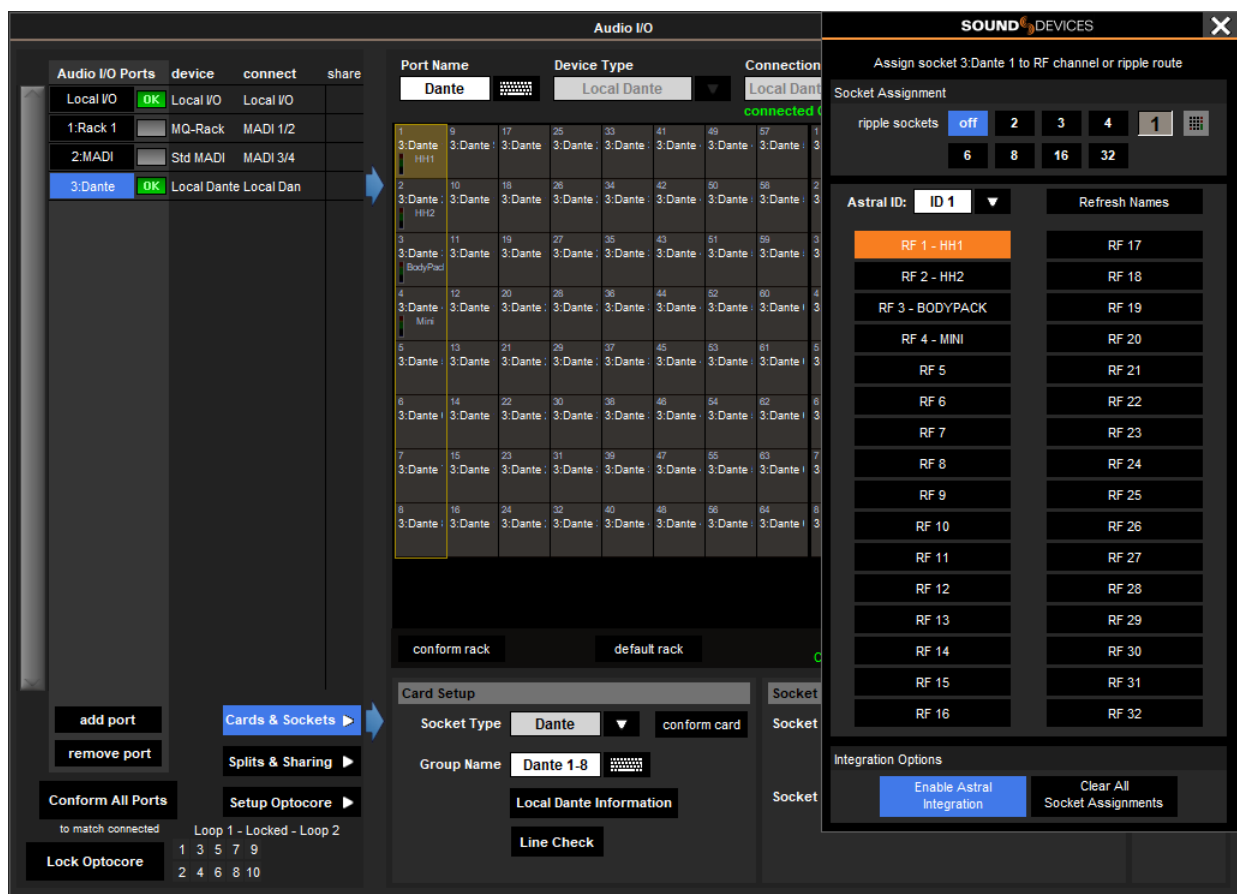


次に Audio IO パネルに移動します。External Control パネル内に、Audio IO パネルを開くための新しいショートカットボタンが配置されています。Audio IO で Cards & Sockets を選択します。このパネル内にある新しい integration (統合) セクションで、Astral ボタンを押します。



これにより SOUND DEVICES パネルが開き、各ソケットに Astral RF データを割り当てることができます。どの入力ポートのどのソケットでもパッチ接続が可能です。

- 受信機に対応する正しいAstral IDを選択します。
- Audio IOソケットを選択し、次にAstral RFチャンネルを選択します。
- Rippleソケットも利用可能です。
- 「Refresh names(名前の更新)」を実行すると、Astral RFチャンネル名がコンソールのSOUND DEVICESパネルと再同期します。

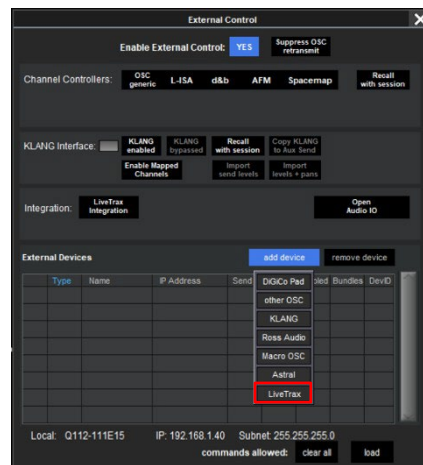


パネル下部にある「Enable Astral Integration」が選択されていることを確認してください。

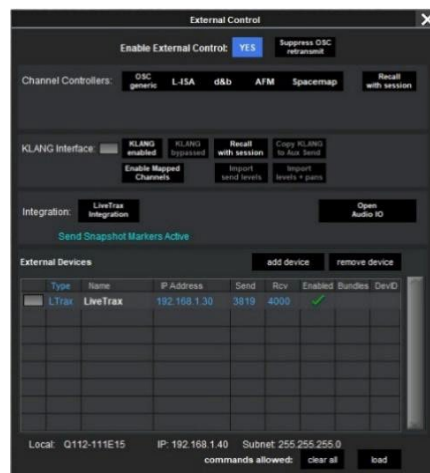
また、「Clear All Socket Assignments」ボタンがあり、これをクリックするとすべてのポートのソケット割り当てがクリアされます。

## 1.6 LiveTrax 3との連携

コンソールで LiveTrax を設定するには、まず External Control (外部制御) に移動し、add device -> LiveTrax を選択します。



LiveTrax を実行しているコンピュータのIPアドレスを入力します。LiveTraxでは、コンソールの送信ポートはデフォルトで3819に設定されており、送信ポートには自動的に値が入力されます。受信ポートはエンドユーザーが選択します。



### 1.6.1 マクロ

マクロパネルに新しい LiveTrax コマンドタイプが追加されました。以下のマクロコマンドが追加されています。

- Play(再生)
- Stop(停止)
- Rewind(巻き戻し)
- Forward(早送り)
- Return to Start(先頭に戻る)
- Record Arm (録音準備/録音待機)
- Add Marker (マーカー追加)
- Locate Marker (マーカーへ移動)
- Send Snapshot Markers (Snapshot マーカー送信)

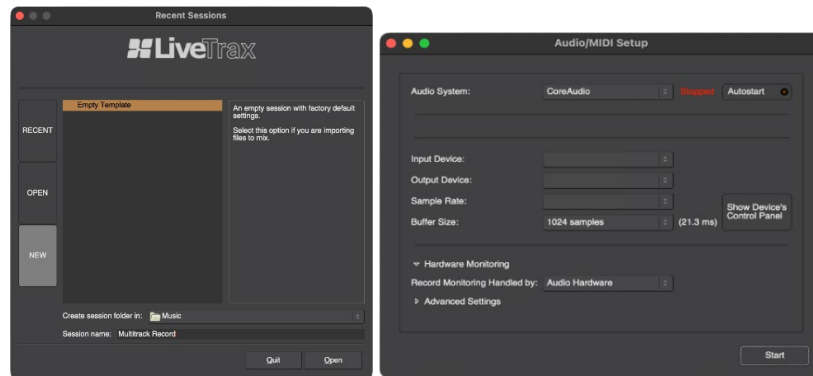
**注意：** LiveTrax のデフォルトのマーカーは「mark」と表記され、「marker」とは表記されません。



特定の LiveTrax マーカーに対して「Locate Marker」マクロを使用するには、「mark1」「mark2」などの形式を使用してください。

## 1.6.2 LiveTrax

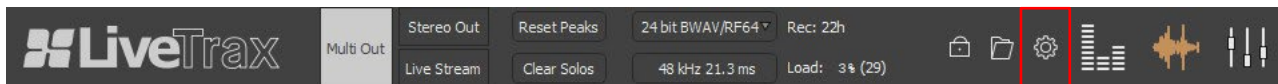
LiveTraxを開き、「NEW」をクリックしてSessionファイル名前を付けます。「open」をクリックします。



次に、Audio/MIDI setupで、以下を選択し、

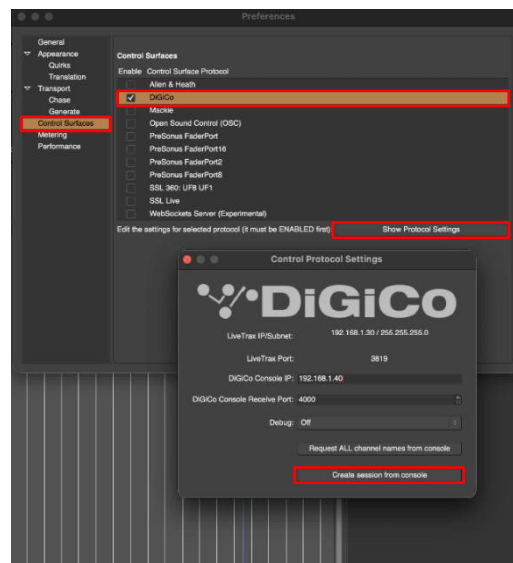
- 入力デバイス
- 出力デバイス
- サンプリングレート
- 確認したら「Startを押します。

メニューバーの右上にある設定アイコン(歯車)をクリックします。



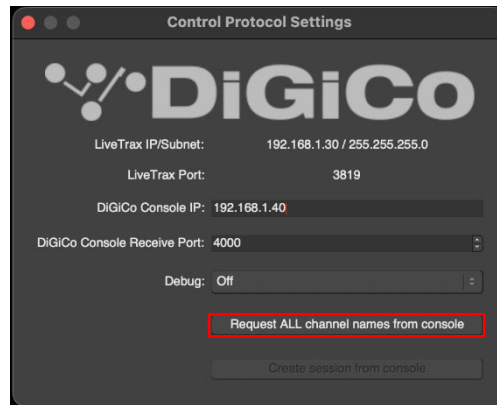
環境設定パネルが開きます。「Control Surfaces」を選択し、DiGiCoにチェックを入れます。「Show Protocol Settings(プロトコル設定を表示)」が利用可能になります。

このパネルには利用可能なIPアドレスが表示されます。DiGiCoコンソールのIPアドレスとコンソールの受信ポートを入力してください。「Create session from console(コンソールからSessionを作成)」ボタンを押すとトラックが作成され、コンソールのチャンネル名がインポートされます。



**注意：**これはLiveTrax Sessionが空の場合にのみ可能です。一度このプロセスが行われると、ボタンがグレイアウトします。

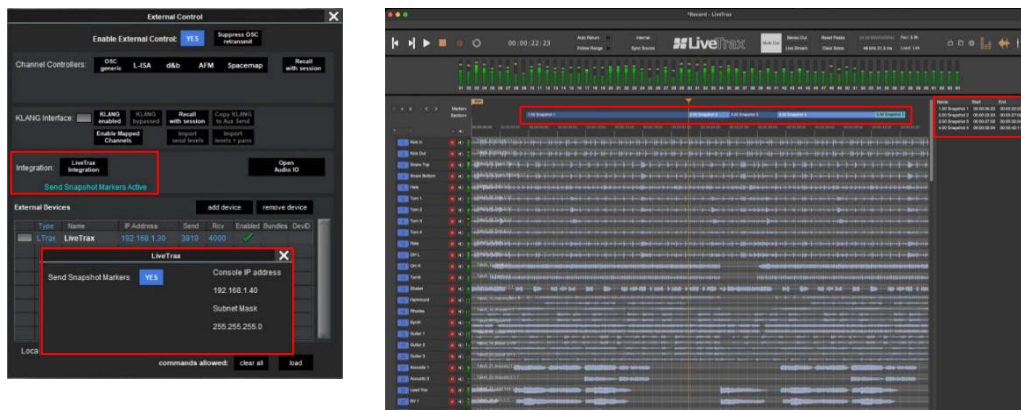
コンソールのチャンネル名が変更された場合、「Request ALL Channel names from console(コンソールからすべてのチャンネル名を取得)」を選択するとトラック名が更新されます。



### 1.6.3 マーカーの自動挿入

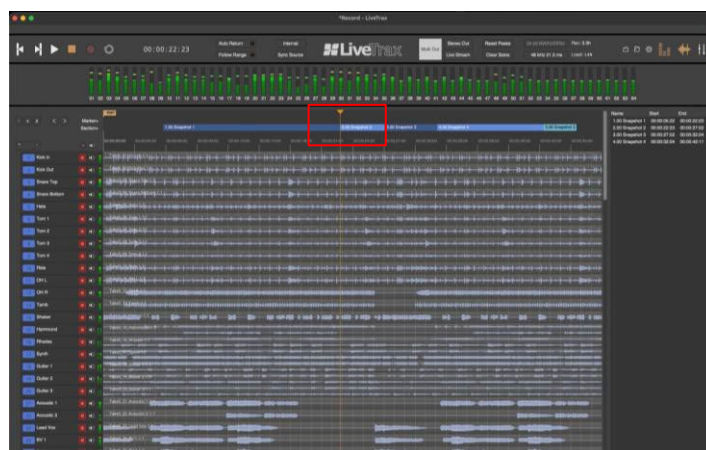
DiGiCoのExternal Controlパネルに「Integration」という新しいセクションが追加されました。

「LiveTrax Integration」ボタンを押して LiveTrax パネルを開きます。「Send Snapshot Markers(スナップショット・マーカー送信)」がYESに設定され、LiveTraxが録音待機・録音中の場合、Snapshotを実行すると LiveTrax 上にSnapshot名のセクションが作成されます。

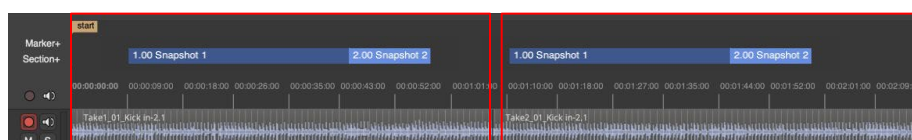


### 1.6.4 再生 - Snapshotの呼び出し

LiveTraxの非録音時にSnapshotを呼び出すと、対応する名前のセクションへ自動移動します。



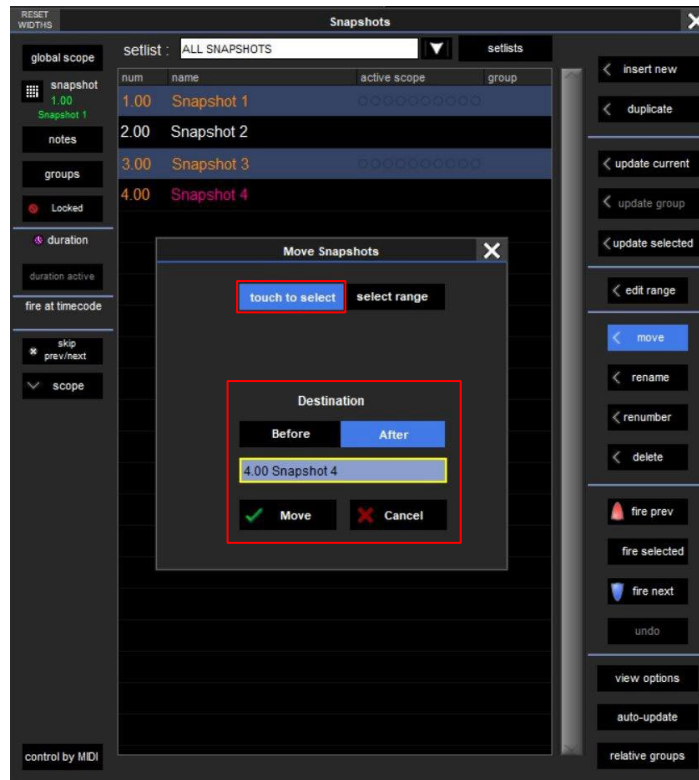
1つのLiveTrax Session内で複数のSnapshotが同じ名前を共有している場合、DiGiCoコンソールでSnapshotを呼び出すと、プレイヘッドが自動的に最新のテイクまたは録音に移動します。



## 1.7 Snapshotとマクロの移動

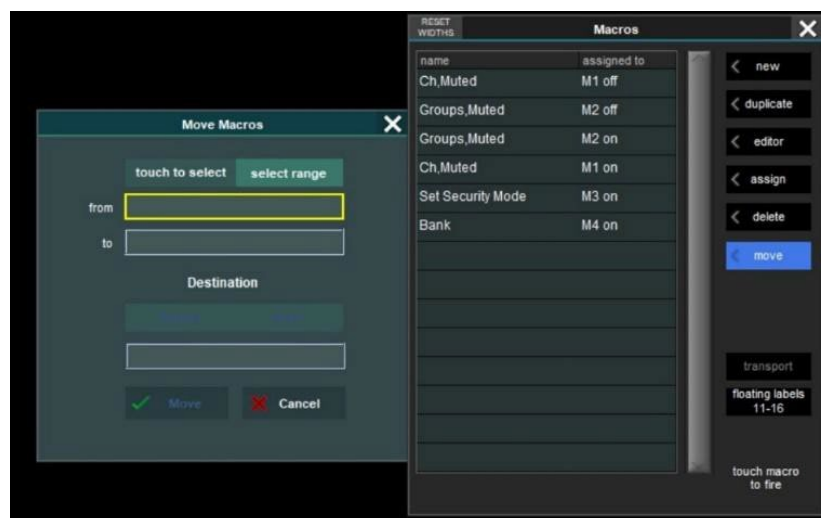
「Move Snapshots(Snapshotの移動)」に「touch to select(タップして選択)」機能が追加されました。これにより、任意のSnapshotや複数のSnapshotをタッチ操作で選択できるようになりました。

また、移動先を目的のSnapshotの「Before (前)」または「After (後)」から選択できます。



マクロパネル内でマクロを並べ替えることが可能になりました。

「move」を押すと Move Macros パネルが開きます。このパネルの動作は Move Snapshots パネルと同じです。

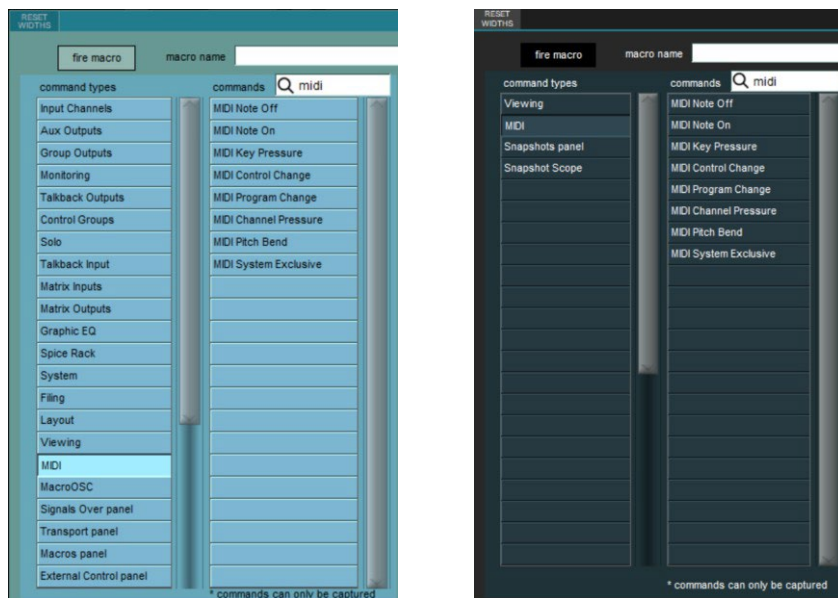


## 1.8 その他の機能と変更

### 1.8.1 Macro検索

Macro、Channel Macro、Macroderの検索機能が更新されました。

検索結果は、検索パラメータを含むコマンドタイプのみを表示するようにフィルタリングされます。



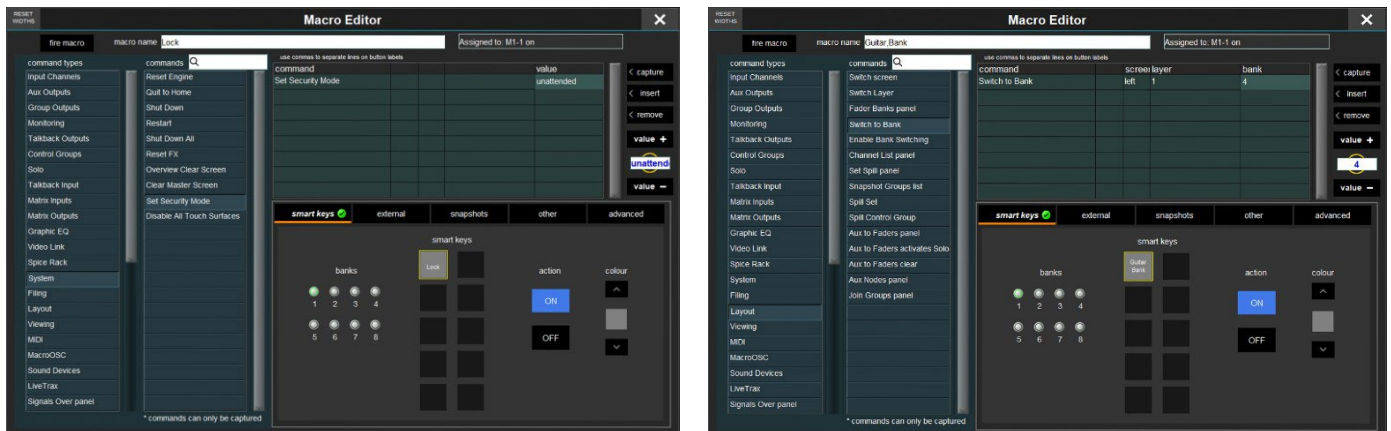
### 1.8.2 Aux パンデータ

Aux セットアップで「copy levels」を使用する際、パンレベルもそのデータに含まれるようになりました。



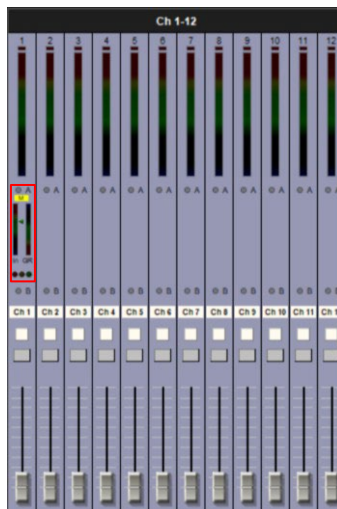
### 1.8.3 Macro追加機能

**Lock Console**：セキュリティモードを Live モードまたは Unattended（無人）モードに設定できます。Switch to **Bank**：単一のサーフェスを選択したバンクに切り替えることができます。



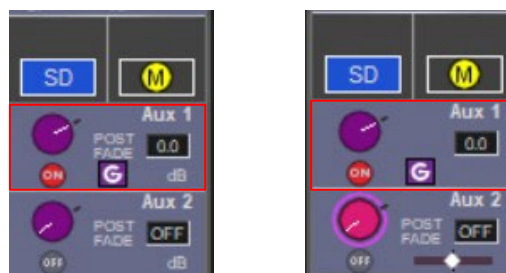
### 1.8.4 Mustard Dynamics - Overview 画面

Mustard Dynamics のゲインリダクションおよびゲートメーターが、スモール・バンクおよびラージ・バンクメーターに追加されました。これらは Overview または Master 画面に配置できます。



### 1.8.5 KLANGのピックアップポイント

Aux ノードで KLANG がアクティブな場合、そのピックアップポイントは非表示になります。

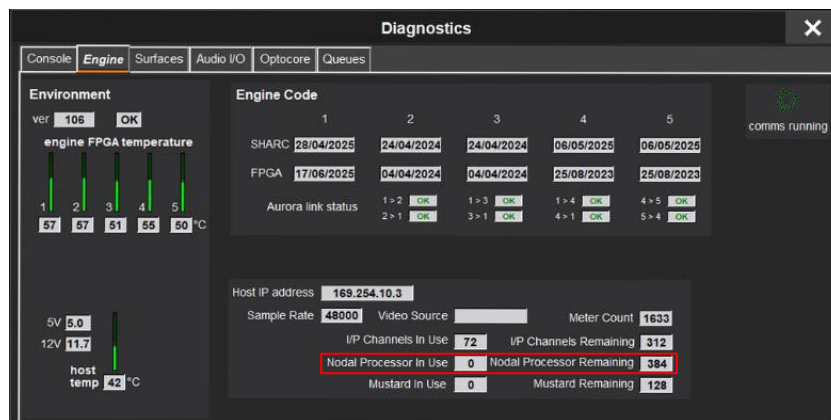


v21

v22

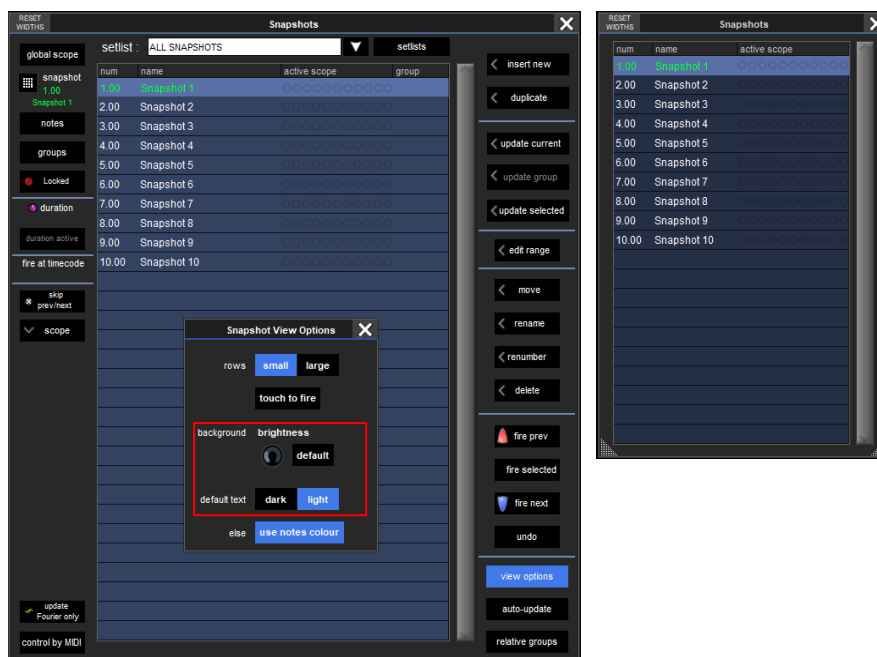
### 1.8.6 Nodal Processing 情報

以前のバージョンでは System > Diagnostics > Engine パネルに Nodal Processing の総数が表示されていましたが、今回から「in use (使用中)」と「remaining (残り)」の数が表示されるようになりました。



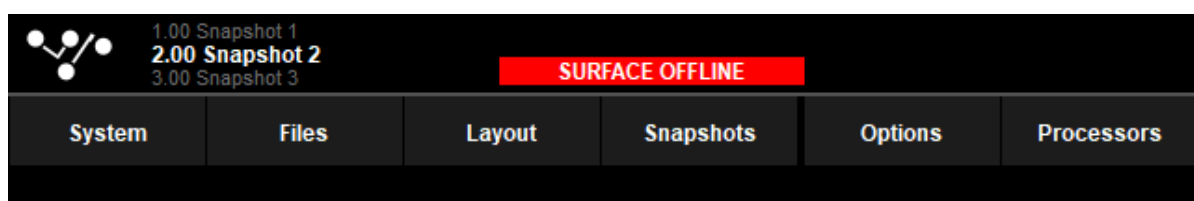
### 1.8.7 Snapshot パネル表示オプション

Snapshot パネルの表示オプションにおける輝度とテキストサイズの設定が、フローティング・Snapshot パネルと同期するようになりました。



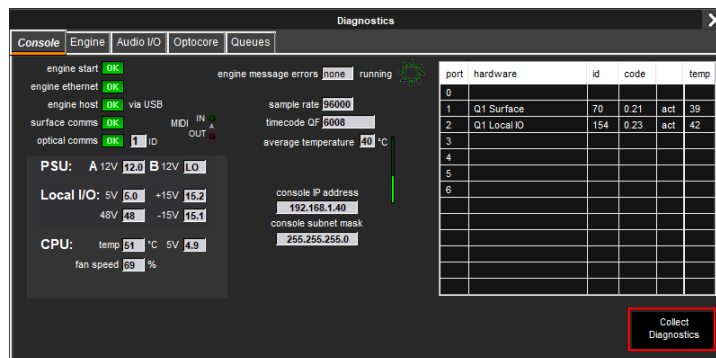
### 1.8.8 Quantum 1 サーフェスのオフライン情報

Surface Offline マクロをアクティブにすると、インフォバー (Information bar) にインジケータが表示されます。



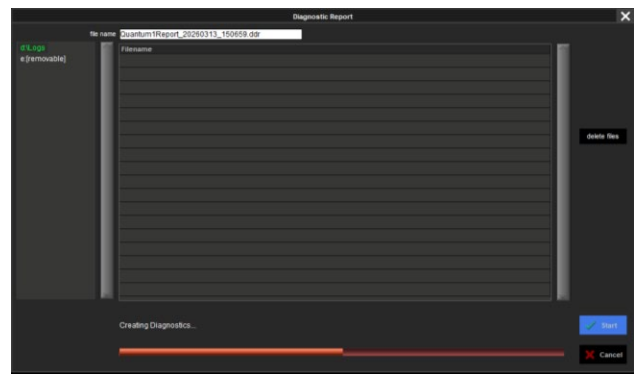
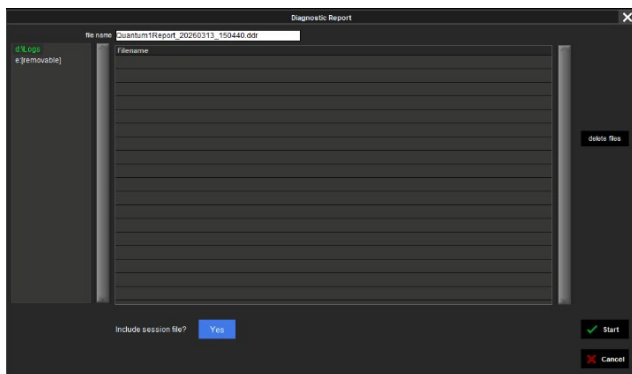
## 1.9 DiagnosticsからLog取得が可能

ログ、Sessionファイル、システム情報を一括してパッケージ化する機能が追加されました。System > Diagnostic > Console を開き、「Collect Diagnostics」を押します。

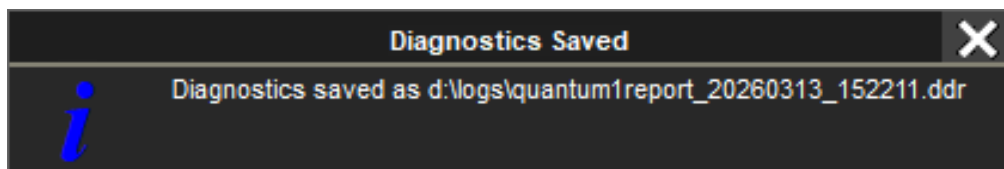


Diagnosticsパネルが開き、以下のオプションが選択できます。

- d:\logsファイル、またはリムーバブルドライブへの保存
- Sessionファイルの削除
- Sessionファイルを含める



リムーバブルドライブに保存するには、ドライブを挿入し、保存先を選択してから「Start」を押して収集を開始します。



これにより、すべてのサポート関連情報を含む .ddr ファイルが作成されます。保存後は、以下の宛先まで送付してください。 [support@digiconsoles.com](mailto:support@digiconsoles.com)

なお、このユーティリティはオフライン版ソフトウェアには表示されません。

## 1.10 v2232 修正されたエラー(バグフィックス)

- D7およびQ7において、ブリッジスクリーンの輝度値が最小（一番下）の状態のとき、Sessionファイルと一緒に輝度設定がロードされない問題を修正。
- Auxノードが「safe」の状態のとき、正しいステータスが表示されない問題を修正。
- KLANGに誤ったマッピング情報を断続的に送信する問題を修正。
- LCRまたはそれ以上のサイズのバスでMustardを選択した際に、断続的に発生していた不具合を修正。
- テンプレートSessionのロード時に、Session名がKLANGに送信されない問題を修正。
- Q8において、パッチされていない（信号のない）バンク間を切り替えた際、LCDのメーターが正しく描画されない問題を修正。
- 再構成（Restructuring）を行うと、メーターの表示位置オプションがデフォルトに戻ってしまう問題を修正。
- マスターミュートの無効化（Disable master mute）が、左側（left leg）が折りたたまれた表示チャンネル（folded view channel）である場合にのみ機能していた問題を修正。
- 8バンドEQの番号がマクロ内で逆になっていた問題を修正。
- Q1で、まれにFourierのプラグインチェーンが空白で表示される問題を修正。
- Q8で、画面下のロータリーLCD表示が選択されたAuxと一致しない問題を修正。
- Q8で、パン・ロータリー上のAuxミックスが一致しない問題を修正。
- Sessionをロードした後、Expanded Channel Control内のオールパスフィルターが、誤ったバンドに基づいて描画される問題を修正。
- Q8で、マトリクス入力のパッチを変更するとメーターブリッジ上のマトリクス出力名が変わってしまう問題を修正。
- Q8で、非常に大きなSessionファイルを保存する際に発生していた問題を修正。
- Q8で、Spice Rackのコントロールがフェーダー上にある際、LCDに南京錠アイコン（Safe padlocks）が消えずに表示されていた問題を修正。
- Q1で、Wavesの外部制御やFourierとの連動を有効にした際、デフォルトで誤ったネットワークアダプターが選択される問題を修正。
- デフォルトSessionにおいて、Q8の右端のマスターフェーダーが再割り当てされなかった問題を修正。
- Orange Box内のDMI-Dante64@96およびDMI-OPTOがアクセス違反（AV）を引き起こす可能性があった問題を修正。

202606

●この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp

<https://www.hibino-intersound.co.jp/>